

時代を先取る菊川型農業モデルの創出

①儲かる次世代農業モデルの推進

- 高付加価値作物の生産や新たな就農者への農地のあっせんを行います。
- 農産物のブランド化を進めるほか、作物転換に必要な知識・技術習得などを支援します。
- 耕作放棄地化を未然に防止します。

②農業女子が輝ける菊川プロジェクト

- 女性の新規就農を支援するため、環境整備や就農の魅力をPRします。



▲儲かる次世代農業モデル



▲輝いている農業女子

計画の推進

計画のフォローアップ・進行管理

- PDCAサイクルによる進行管理
- 第2次菊川市総合計画との一体的な推進(平成29年度～)
- 必要に応じて計画の見直しを行う

多様な主体との連携・協働

- 市民や事業者等をはじめ産業界・行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディアと地域が丸となった総合的な取り組みを継続

財源の確保

- 国の財政支援制度等を積極的に活用し、的確な予算措置を図っていく

注: 総合戦略の詳細については菊川市HP内『菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略』をご参照ください。



©菊川市26-001

菊川市のその他の情報はここから

菊川市CMページアドレス

<https://www.youtube.com/watch?v=Po3LR0w-52o>



菊川市フェイスブックページアドレス

<https://ja-jp.facebook.com/e.kikugawa>



菊川市ホームページアドレス

<http://www.city.kikugawa.shizuoka.jp/>



平成27年10月

菊川市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略

発行 菊川市 企画財政部 企画政策課

〒439-8650 静岡県菊川市堀之内61
TEL:0537-35-0900 FAX:0537-35-2177
E-mail:kikaku@city.kikugawa.shizuoka.jp

菊川市
まち・ひと・しごと
創生

総合戦略

- 菊川市の人口は平成19年をピークに減少し始めています。しかし、将来にも不安のない、安定した「暮らし」を守り、自立したまちを維持していくことが必要です。
- そこで、本市の実情を踏まえた、菊川市人口ビジョン及び菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。

菊川市
人口

現在の約47,000人が2060年には約31,000人に減少
2060年に36,000人を確保することを目指します!

菊川市の現状

社会動態は転入超過であるものの、自然動態においてはそれを上回る自然減が起きており、平成19年をピークに菊川市の人口は減少しています。

自然動態 ～出生・死亡に伴う増減～

●死亡が出生を上回る

平成21年以降は死亡数が出生数を上回り、自然減が続いています。

- 合計特殊出生率 ※は減少から回復へ
合計特殊出生率をみると、昭和58年から平成19年まで減少していましたが、平成24年にかけて回復傾向にあります。全国との比較では、国の1.42(平成26年)に対し、菊川市は1.66(平成20～24年)と上回っています。

※合計特殊出生率：一人の女性が一生に産む子どもの平均数

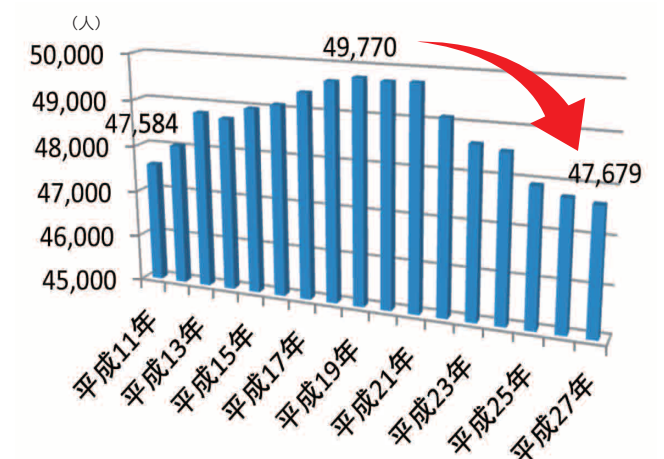
- 婚姻率と出生数は横ばいから上昇傾向
婚姻率と出生数の推移をみると、どちらも増減を繰り返しながら横ばいで推移しており、平成23年以降はともに上昇傾向にあります。

社会動態 ～転入・転出に伴う増減～

●転入者は微増傾向

近年は転入者が転出者を上回る社会増の傾向が続いています。しかし、就職期と思われる20歳代の転入増がみられるものの、10歳代後半及び30歳代から60歳代までの各年代で転出超過がみられます。

菊川市の人口推移



※住民基本台帳 各年3月31日

菊川市の人口は平成19年をピークに減少し始めています。

菊川市の魅力

菊川市の素晴らしい魅力を紹介します

主婦が幸せに暮らせる街 ランキング1位!! 住み良さランキング2位!

- 「主婦が幸せに暮らせる街ランキング」(学研パブリッシング2014)で中部ブロック(東海4県)1位(全国17位)を獲得。
- 全国全市を対象とした「第22回住みよさランキング」(東洋経済新報社2015)で県内2位を獲得。



▲ママ同士の交流の場
(菊川児童館)



▲大型の公園も充実
(菊川運動公園)

仕事もプライベートも アクセス良好!!

- 本市にはJR東海道本線菊川駅、東名高速道路菊川ICが、近隣市には新幹線掛川駅、御前崎港、富士山静岡空港があり、アクセス良好。



▲富士山静岡空港まで車で20分
(無料駐車場完備)



▲JR菊川駅

茶園の広がる抜群な自然環境!! 茶草場農法は世界農業遺産!!

- 菊川市の東には日本一の大茶園、牧之原台地が広がり、「お茶のまち菊川」として広く知られている。
- 国際連合食糧農業機関により2013年「茶草場農法」が世界農業遺産認定。



▲日本一の大茶園



▲世界農業遺産
茶草場農法

菊川市人口ビジョン

2060年に36,000人を目指す

出生率を高めます

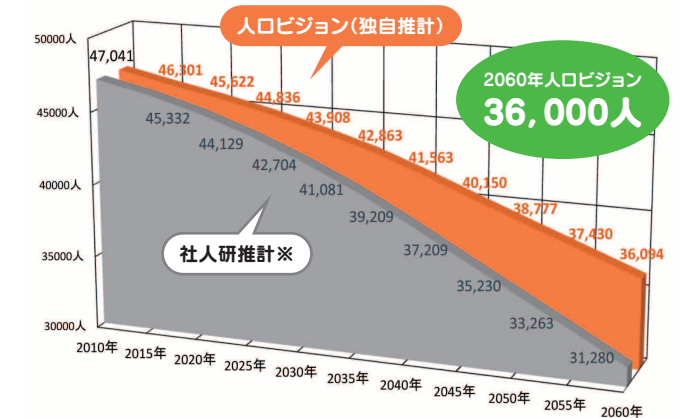
合計特殊出生率について、2035年に2.06を実現します。

- 子どもの数を増やす
 - ・若い世代の婚姻率を高める
 - ・理想の子どもの実現する

移動率を改善します

人口転出入のバランスを改善します。

- 若い世代の流出を抑制
 - ・就学後の市外からのU・Iターン促進
 - ・居住地として選ばれるよう魅力を高める



※社人研推計：厚生労働省に所属する研究機関である「国立社会保障・人口問題研究所」が全国の都道府県・市区町村別に公表する将来推計人口値。

菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略

3つの基本目標

2015年(平成27年)から2019年(平成31年)の5年間で戦略的に取り組む施策・事業を位置づけます。

抜群な子育て環境で家族が幸せに暮らせるまち

①子育て・教育環境の更なる充実

- 多様化する保育・教育ニーズに対応するため、市内の幼・保園の認定こども園化を進めます。
- 理想の子どもの実現するために経済的な支援を行います。
- 手軽に情報を得られるように、スマホ用アプリを開発し、子育て情報を発信します。
- 各小中学校にICT機器を導入し、学力の向上に活用していきます。

②都市拠点の強化とブライズレスな体験のあるまち

- 市内で開催するおんぱく(※1)やパル等のイベント実施に対して支援します。
- 茶摘等を中心とした農業体験により自然や人と自然にふれあう機会を提供します。
- 菊川駅北周辺地域のまちづくりを進めます。

③シティプロモーションの実施

- 若者や子育て世代に居住地として選ばれるよう、本市の魅力や情報を発信します。



▲ICTを活用した授業



▲茶交流体験促進事業

贅沢な自然環境「夢あるしごと」「生きがい」のあるまち

①郷土愛を育むまち

- 若者に本市で働くことのよさを伝えるため、地元企業等と連携し、キャリア教育やセミナーを開催します。

②「働く場」と「出会い」があるまち

- 積極的な企業誘致のため、新たな用地の選定や助成の拡充を図ります。
- 関係機関との連携による創業支援や団体設立の支援を行います。
- 若者、女性、高齢者、U・Iターン者等の就業促進を図ります。
- 独身男女の出会いのきっかけづくりとして婚活パーティ等の開催を支援します。

③アクセスの良さを活かした住環境の整備

- JR東海道本線菊川駅、東名高速道路などの交通アクセスを活かし、子育て世代に対する住宅取得支援や空き家の利活用方法を考えます。

④自己実現できるまちづくり

- 多様な就業のニーズに対する雇用機会の創出や市民、地域づくり活動を支援します。
- 健康寿命の延伸を図るため、ロコモティブシンドローム(※2)の予防などの市民の健康づくり活動を推進します。



▲ふるさと志向力を育むキャリア教育



▲贅沢な自然環境(倉沢の棚田)

※1 地域資源を活かした小規模な体験交流型のイベントを一定の期間内に集中的に提供し、地域のひとと場所の魅力に触れる企画。

※2 運動器症候群。運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態。

注：その他用語解説については菊川市HP内「菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をご参照ください。